

# 日本英文学会中部支部 第 64 回大会プログラム

## 研究発表・シンポジウム要旨

日時

2012 年 10 月 27 日 (土)・28 日 (日)

場所

南山大学 名古屋キャンパス R 棟

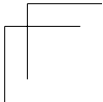
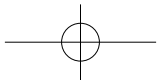
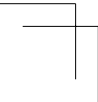
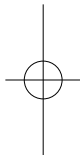
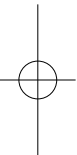
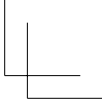
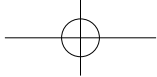
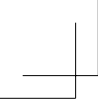
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18

TEL : 052-832-3111 (代表)

<http://www.nanzan-u.ac.jp>



主催 日本英文学会中部支部



## 大会進行表

### 第1日目 10月27日(土)

1. 開会式 [フラッテンホール] 13:30 ~ 13:40  
開会の辞 支部長 武田 悠一  
会場校挨拶 南山大学外国語学部長 鈴木 達也
2. 総会 [フラッテンホール] 13:40 ~ 13:55
3. 特別講演 [フラッテンホール] 14:00 ~ 15:00  
「物語」の力と「自己」の語り直し  
講師 野家 啓一(東北大学大学院文学研究科教授)
4. 研究発表 15:30 ~ 17:30  
第1室 [R32 教室] 英米文学・文化  
第2室 [R33 教室] 英米文学・文化  
第3室 [R43 教室] 英米文学・文化  
第4室 [R44 教室] 英米文学・文化  
第5室 [R51 教室] 英語学  
第6室 [R52 教室] 英語学
5. 懇親会 18:00 ~ 20:00  
南山大学職員食堂 会費 4000 円

### 第2日目 10月28日(日)

1. シンポジウム 10:00 ~ 12:30  
第1室 (英米文学) [R49 教室]  
「大学で読む児童文学／Reading Children's Literature at University」  
第2室 (英語学) [R31 教室]  
「新学習指導要領時代の英語学教育」
2. 閉会式 [フラッテンホール] 12:45 ~ 13:00  
閉会の辞 副支部長 平林 美都子

## 特別講演・要旨

10月27日(土) 14:00～15:00

### 「物語」の力と「自己」の語り直し

講師 野 家 啓 一 (東北大学大学院文学研究科 教授)

司会 武 田 悠 一 (南山大学 教授)

昨年3月11日の東日本大震災に際して、被災者の一人は「今日の続きの明日が、去年の続きの今年がやってくると思っていました」(『世界』別冊 no. 826、2012)と述懐している。まさに3.11の以前と以後とは、時間の連続性が断ち切れ、周囲世界や人間関係のありようが一変したのである。津波で家屋や家財を流され、家族や友人を失った被災者にとっては、「自己」の連続性(アイデンティティ)もまた自明のものではありえず、埋め難い空白を抱え込まざるをえない。震災で自身も被災されながら「心のケア」に携わってこられた桑山紀彦医師は「心のケアが必要な人にとって、記憶を紡ぎ出し、それを物語化し、どういう形でどこに仕舞う、つまり奉納するかという一連の作業が必要です」(海堂尊監修『救命』新潮社、2011)と述べている。人は誰しも、自分がこれまでどのように生きてきたか、これからどのように生きるべきか、についての一つの「物語」を背負って生きている。その「物語」が粉々に崩れ去ったとき、私たちは危機に瀕した「自己」の語り直しを求められるのである。自己の「物語」を語り直す作業は、同時に「自己」の概念についても再考を迫ることであろう。本講演では、自己と物語に関するH.アーレントやP.リクルの議論を参照しながら、物語論(narratology)の観点から「自己とは何か」という哲学古来の問いにアプローチし、併せて自己を紡ぎ直す「物語の力」について考えてみたい。

## 研究発表一覧

10月27日(土) 15:30～17:30

### 第1室 [R32 教室]

司会 久野 陽一(愛知教育大学 教授)

1. ヘンリー・フィールドイングの反ジャコバイト主義  
— *A Serious Address to the People of Great Britain* を中心にして—

名城大学 教授 一ノ谷 清美

2. *Howards End* は London から遠いのか  
— 小説『ハワーズ・エンド』における空間認識—

愛知淑徳大学 助教 山田 幸代

司会 鈴木 俊次(愛知学院大学 教授)

3. Virginia Woolf's Critical Usage of Analogy between Women and Flower in *Mrs. Dalloway*

名古屋大学文学研究科 博士課程前期2年  
岩田 扶美

### 第2室 [R33 教室]

司会 松本 三枝子(愛知県立大学 教授)

1. 『つまらぬ女』における「新しい女」  
名古屋大学文学研究科 研究員 森 彩香
2. 19世紀イギリスにおける温室の発展

愛知学院大学 准教授 芝 奈穂

司会 伊里 松俊(愛知県立大学 教授)

3. Wandering and Benevolence in "The Old Cumberland Beggar: A Description"

名古屋大学文学研究科 博士後期課程1年  
板谷 純子

4. ムーアの『一青年の告白』とジョイスの『若い芸術家の肖像』をめぐる視覚芸術

金城学院大学 教授 田村 章

### 第3室 [R43 教室]

司会 中村 栄造(名城大学 教授)

1. エコフェミニズムの視点から読み解く『白鯨』

愛知大学 嘱託助教 林 姿穂

司会 岩田 和男(愛知学院大学 教授)

2. Black Swan, White Swan: Sylvia Plath and Anne Sexton Go to the Movies

詩人 Jane Nakagawa

### 第4室 [R44 教室]

司会 榎 正行(中京大学 教授)

1. 「英国映画と舞台のトランスジェンダー」  
中京大学 非常勤講師 玉崎 紫
2. 母の子宮からふつうに誕生しなかった  
人造人間の「苦悩」

——クリーチャー(『フランケンシュタイン』)からクローン人間(『わたしを離さないで』)へ

筑波大学 教授 今泉 容子

### 第5室 [R51 教室]

司会 大室 剛志(名古屋大学 教授)

1. To の意味論

信州大学 教授 加藤 鉦三

信州大学 准教授 花崎 一夫

信州大学 准教授 花崎 美紀

2. 構文文法理論における文法化の扱いについて

南山大学短期大学部 准教授 石崎 保明

### 第6室 [R52 教室]

司会 有元 将剛(南山大学 教授)

1. 「前置詞及び不定詞句を導く to の検証」  
信州大学人文科学研究科 修士課程2年

上條 智緩

信州大学人文科学研究科 修士課程1年

黒岩 美里

信州大学人文科学研究科 修士課程1年

早野 勇馬

2. 「前置詞 to を用いた未来表現の効果的な教授法の提案」

信州大学人文科学研究科 修士課程1年

藤原 隆史

信州大学人文科学研究科 修士課程1年

脇淵 良太

## シンポジウム一覧

10月28日(日) 10:00～12:30

### 第1室 (英米文学) [R49 教室]

「大学で読む児童文学／Reading Children's Literature at University」

|       |            |            |
|-------|------------|------------|
| 司会・講師 | 橋 本 恵      | (南山大学 教授)  |
| 講師    | Ve-Yin Tee | (南山大学 講師)  |
| 講師    | 板 倉 巖一郎    | (中京大学 准教授) |

### 第2室 (英語学) [R31 教室]

「新学習指導要領時代の英語学教育」

|       |         |           |
|-------|---------|-----------|
| 司会・講師 | 鈴 木 達 也 | (南山大学 教授) |
| 講師    | 金 子 義 明 | (東北大学 教授) |
| 講師    | 都 築 雅 子 | (中京大学 教授) |

# 研究発表・要旨

10月27日(土) 15:30～17:30

## 第1室 [R32 教室]

司会 久野陽一 (愛知教育大学 教授)

### 1. ヘンリー・フィールディングの反ジャコバイト主義 —— *A Serious Address to the People of Great Britain* を中心にして ——

名城大学 教授 一ノ谷 清 美

ヘンリー・フィールディングは、1745年のジャコバイトの乱を契機に、ほぼ4年ぶりに、プレス活動を本格的に再開した。本発表は、この乱に関する彼の最初の意見表明である *A Serious Address to the People of Great Britain* (1745) を中心にして、同時期に彼が書いたパンフレット、新聞社説に見られる、反ジャコバイト主義の思想的特徴とレトリックの系譜について考察する。スチュアート王朝の再興をめざしたこの乱が社会につきつけた問題は、名誉革命の理論的妥当性をめぐる、社会のコンセンサスの問題であった。ここでは、フィールディングが、18世紀前半のホイッグの名誉革命観をどのように咀嚼し、伝達したのかについて明らかにしたい。

### 2. *Howards End* は London から遠いのか ——小説『ハワーズ・エンド』における空間認識——

愛知淑徳大学 助教 山田 幸代

E. M. Forster による *Howards End* (1910) は、とりわけその空間認識と文体において初期モダニズム小説の特徴を持つと言われている。言い換えればこの小説に描かれた19世紀後半から20世紀初頭のイングランドにおける「土地」と「人」との関係性とその語りの形式が、この小説を *Ulysses* (1922) や *Mrs Dalloway* (1925) へと連なるモダニズム文学に位置づけるのである。そして個人の主体や個々の人間関係といった近代性を主題としながらも、この作品は独自の形式で当時の社会的状況、すなわち英国の帝国主義を描いている。本発表ではモダニズム小説としての『ハワーズ・エンド』の近代性について、特に空間認識と文体という観点から再考してみたい。

司会 鈴木俊次 (愛知学院大学 教授)

### 3. Virginia Woolf's Critical Usage of Analogy between Women and Flower in *Mrs. Dalloway*

名古屋大学文学研究科 博士課程前期2年 岩田 扶美

昨今のエコロジーへの関心の高まりを受け、Woolfの作品を自然との関わりから再読しようという試みが近年活発に行われている。本研究はその流れに倣差しつつ、Woolfの女性と花の隠喩をエコフェミニズム的な観点から読み解くことを試みる。従来の研究ではWoolfの花の隠喩は、

女性の隠された才能や性質を表象するものとして肯定的に解釈されることが一般的だった。これに対し本発表では、作品内において女性が花に喩えられる時、必ず背後に父権社会の圧力が暗示されていることを指摘する。本発表を通し、Woolfは女性に「社会を彩る花」の役割を強要しようとする社会の働きを可視化し、批判する意図をもっていたことを主張する。

## 第2室 [R33 教室]

司会 松 本 三枝子 (愛知県立大学 教授)

### 1. 『つもらぬ女』における「新しい女」

名古屋大学文学研究科 研究員 森 彩 香

オスカー・ワイルドの『つもらぬ女』は、1880年代後半のロンドンで流行したメロドラマ *Sweet Lavender* の筋書きを覆している。Powellによれば、過去に非嫡出子をもうけた女性が、改悛した男性と結婚するという筋書きに対し、結婚を拒否する未婚の母を登場させたことがワイルド戯曲の特徴である。アーバスノット夫人は、未婚の母であり社交界から追放される「堕ちた女」でありながら、時を経て再び社交界に舞い戻ったときには、過去の罪を悔い改めずに結婚も拒否する「新しい女」に変貌している。社交界に舞い戻る「新しい女」が活躍し、それなりの幸せをつかみながらも戯曲の終りでは、社交界を去って外国へいく。ワイルド戯曲における「新しい女」は「堕ちた女」と表裏一体の関係にあるのではないかとすれば、「堕ちた女」が社交界で葛藤し、アイデンティティの再構築を目指した結果、「新しい女」へと変化を遂げるのではないかと。『つもらぬ女』におけるアーバスノット夫人の「新しい女」像について考えたい。

### 2. 19世紀イギリスにおける温室の発展

愛知学院大学 准教授 芝 奈 穂

19世紀イギリス建築における発明品の一つに、温室を挙げることができる。温室が発達した背景として、科学技術の発展、植物学の進歩、植民地拡大に伴う異国の植物の流入とイギリス各地における植物園の設置等が考えられる。温室技術は、1851年ロンドン万国博覧会会場である水晶宮の建築的構造にも反映されているのは、周知の事実である。本発表では、19世紀半ばのイギリスにおいて、最も有名であった二つの温室、Kew Gardens (キュー・ガーデン) におけるPalm HouseとRegent's Park (リージェンツ・パーク) のWinter Gardenを取り上げ、それらが成立した過程、意義、その影響について見ていきたい。

司会 伊 里 松 俊 (愛知県立大学 教授)

### 3. Wandering and Benevolence in “The Old Cumberland Beggar: A Description”

名古屋大学文学研究科 博士後期課程1年 板 谷 純 子

*Lyrical Ballads* 1800年版に発表された“The Old Cumberland Beggar: A Description”に描かれる放浪者は、共同体の村人たちの心をつなぐ存在となっていると考える。彼の放浪は、村をまわって村

人たちから施しを得ることを通して、村人たちの心に善意をよみがえらせ、善行をかさねようとする動機を生むからである。貧困の増大する社会状況のなかで政府の救済制度にかかわって、村人たちは善意をはたらかせ主体的に行動する。放浪者への Cumberland の村人たちの善行と彼の放浪について 18 世紀末の歴史的視座にたって考察する。

#### 4. ムーアの『一青年の告白』とジョイスの『若い芸術家の肖像』をめぐる視覚芸術

金城学院大学 教授 田 村 章

ジョージ・ムーアの『一青年の告白』とジェイムズ・ジョイスの『若い芸術家の肖像』は、どちらも芸術家の形成を描いた自伝的作品である。『一青年の告白』は、パリにおける印象派絵画の発展を中心に音楽や詩、小説を含めた当時の新しい芸術に幅広く言及している。一方、ジョイスは『若い芸術家の肖像』で一人の主人公がアイルランドに対峙しながら自らの芸術を確立しようとする様子に集中している。ただし、この作品でジョイスが視覚芸術の新たな動きとは無関係かと言えば決してそうではない。印象派絵画の描写方法との類似がはっきりと認められるからである。これら二作品におけるムーアとジョイスのアイルランド観や視覚芸術との関わりに焦点をあて、アイルランド文学とモダニズム芸術の関係を考察したい。

### 第3室 [R43 教室]

司会 中 村 栄 造 (名城大学 教授)

#### 1. エコフェミニズムの視点から読み解く『白鯨』

愛知大学 嘱託助教 林 姿 穂

Herman Melville の *Moby-Dick, or The Whale* (『白鯨』) の中で、女性の登場人物はエイハブ、スターバックそしてイシュメルの空想の中の妻や継母しかいない。その代わりとして、人間の女性ではなく自然のもつ女性らしさが作品中で度々描かれる。例えば、海に落ち、溺れた水夫が救われる場面を描く際に、作家は出産のイメージを伴って描いている。しかし、作家は、女性と自然を直接的に結びつけ、女性と自然、男性と法という文学的二項対立を描いているのではない。むしろその二項対立を壊そうと試みたのではないかと思われる。本発表では作家が如何なる手法でこの二項対立を壊そうと試みたのか、作家のエコフェミニズム的視点を交えながら作品の新たな読みの可能性について論じたい。

司会 岩 田 和 男 (愛知学院大学 教授)

#### 2. Black Swan, White Swan: Sylvia Plath and Anne Sexton Go to the Movies

詩人 Jane Nakagawa

Jane Nakagawa will discuss parallels between the 2010 Hollywood film *Black Swan* and the poetry of Sylvia Plath and Anne Sexton. Drawing upon feminist theory / writing, especially the work of Luce Irigaray, Germaine Greer, Susie Orbach, Helene Cixous and Claire Raymond, connections between life and death, true selves and

false selves, desire versus societal expectations / limitations, and fractured versus whole women in the poems of these poets will be explored, vis-à-vis the doppelganger theme in *Black Swan*.

## 第4室 [R44 教室]

司会 梶 正 行 (中京大学 教授)

### 1. 英国映画と舞台のトランスジェンダー

中京大学 非常勤講師 玉 崎 紫

英語圏の映画において、ゲイやレズビアンは「他者」性を際立たせる装置として、或いは性の領域のみならず、その他の領域の「他者」のメタファーとして登場することが多い。しかしながら、ゲイやレズビアンの物語を通して「他者」を語ろうとするとインパクトが強すぎて反発を呼びやすい。そのような背景もあるのか、ここ10年くらいの間に成功した英国映画や舞台にはトランスジェンダーの人物像が多く見られてきた。2000年に大ヒットした英国映画 *Billy Elliot* に登場する女装癖のある少年から、2002年6月にウェストエンドで初演されたロンドンミュージカル *Bombay Dreams* に登場するヒジューラーや、2005年の英米合作映画 *Kinky Boots* に登場するドラッグクイーンまで、トランスジェンダーの人物たちが、ゲイやレズビアンより巧妙に、現代ならではのわたしたちの帰属意識とアイデンティティの問題に光をあてていることを追究したい。

### 2. 母の子宮からふつうに誕生しなかった人造人間の「苦悩」——クリーチャー (『フランケンシュタイン』) からクローン人間 (『わたしを離さないで』) へ

筑波大学 教授 今 泉 容 子

人造人間は現実界ではまだ市民権を得ていないが、小説や映画などのフィクションには多く登場する。彼らの誕生のしかたや成長のプロセスは、作品ごとに異なる。しかし、小説に描かれた人造人間たちには、共通する点がひとつある。それは、彼らが自分の存在を認識したとき、終わりのない深いロマン主義的苦悩がはじまる、ということである。

本発表では、ふたつの小説——メアリ・シェリー著『フランケンシュタイン』、カズオ・イシグロ著『わたしを離さないで』——に描かれた人造人間の「苦悩」を分析し、19世紀から21世紀に続く「苦悩」の系譜を解明したい。また同時に、その「苦悩」が映画化作品においてはどのように変容されるかを考察し、小説と映画の比較研究へと進んでいきたい。

## 第5室 [R51 教室]

司会 大 室 剛 志 (名古屋大学 教授)

### 1. To の意味論

信州大学 教授 加 藤 鉦 三  
 信州大学 准教授 花 崎 一 夫  
 信州大学 准教授 花 崎 美 紀

前置詞 *to* は着点を表すと一般に考えられている。しかし、(1) *To my surprise, he was still alive.* (2) *I woke up to the sound of birds.* (3) *The curtain rose slowly to a silent, still audience.* のように、着点とは考えにくい、あるいは着点があることが何によって許されているのかが見えていない *to* の用例がある。(1) の用法は結果状態を表すと考えらるが、結果状態は動作と共に起るのが普通であるのに、ここでは動作が表面には表れていない。(2) と (3) は、前置詞は動詞等の語彙に選択されるのではなく、「実際に行われている状況」によって選択されるという例である。そう考えることで、(2) では “reaction” が取る *to* であり、(3) では “be open to” が取る *to* である、と言える道が開かれる。本発表では、以上のような、着点を表す *to* がそこで用いられている理由が直接的に見えないような事例を考察したい

### 2. 構文文法理論における文法化の扱いについて

南山大学短期大学部 准教授 石 崎 保 明

通時の変化としての文法化研究は、脱文法化や語彙化、イディオム化といった言語変化の諸現象を巻き込みながら、様々な理論的枠組みの中で活発な議論が続いている。近年では Traugott (2008a, b)、Trousedale (2008) など、これまでは共時的な言語現象の考察が中心であった構文文法 (Construction Grammar) に基づく文法化の研究もみられるようになってきた。本発表では、構文文法理論の枠組みで文法化を扱った上記の先行研究を踏まえた上で、構文文法の枠組みで言語の通時の変化、とりわけ文法化をどのように捉えることができるのかを議論する。具体的には、共時的段階性 (gradience) と通時的漸進性 (gradualness) を包含した用法基盤モデルに基づく構文の変化モデルを提案し、文法構文の歴史的発達からその妥当性を検討する。

## 第6室 [R52 教室]

司会 有元 将剛 (南山大学 教授)

### 1. 「前置詞及び不定詞句を導く *to* の検証」

信州大学人文科学研究科 修士課程2年 上 條 智 緩  
 信州大学人文科学研究科 修士課程1年 黒 岩 美 里  
 信州大学人文科学研究科 修士課程1年 早 野 勇 馬

前置詞 *to* は、目的語に名詞を持つ前置詞としての働きのほか、原形不定詞を導き、不定詞句

を形成する働きを持つ。だが、Tyler and Evans (2003) では、前置詞 *to* の分析しかされておらず、不定詞句に関しては議論がされていない。逆に、井筒 (2002) では、不定詞の特徴付けはされているが、前置詞 *to* の分析はされていない。さらに、*to* 不定詞の分析自体にも問題がある。「時間的ズレは、*to* 不定詞によって言語化されている」(井筒 2002: 75) という記述があり、SV *to* O の形と SVO *to* O の形のみを扱うが、*to* よりも前が時間的に先行していて、*to* 以下が時間的に後に起こるという特徴付けがなされている。では、I'm glad to hear that you will be working with us this summer. という文ではどうだろうか。時間的に先行するのは *to* 以下である。*to* 不定詞の *to* にも前置詞としての *to* と共通する意味があるという立場から、本発表では、前置詞と不定詞の両方の意味を包括できるような *to* の特徴づけを試みる。

## 2. 「前置詞 *to* を用いた未来表現の効果的な教授法の提案」

信州大学人文科学研究科 修士課程 1 年 藤原 隆史  
 信州大学人文科学研究科 修士課程 1 年 脇淵 良太

学校教育では *to* 不定詞を用いた未来表現がいくつか扱われている。*to* 不定詞を含む未来を表す表現 (be *to* 不定詞、be going *to* 不定詞、be about *to* 不定詞) の意味的差異については、日本語訳における意味の違いのみが指導の対象になっているのが現状である。よって本発表では、日本語訳による表現の棲み分けではなく、各表現が固有に持つ指示範疇の差異を明らかにする。またその結論に加え、発表①での結論を基に、前置詞 *to* 及び *to* 不定詞の意味論的解釈を用いた教授法が、実際の教育現場において、生徒が各未来表現の日本語訳のみならず、英作文においても、適切に各表現を使い分けることができるようになる、という結果を実験データと共に示す。

## シンポジウム・要旨

10月17日（日） 10：00～12：30

### 第1室（英米文学） [R49 教室]

#### 大学で読む児童文学／Reading Children's Literature at University

司会・講師 橋 本 恵（南山大学 教授）  
 講師 Ve-Yin Tee（南山大学 講師）  
 講師 板 倉 巖一郎（中京大学 准教授）

研究と教育の現場が離れてきたと言われて久しいが、本当にそうだろうか？英文学の面白さは学生にも伝わるし、英文学研究のアプローチは多様化して幅広いニーズに応えられるようになった。工夫次第で、まだこの両者はうまく結びつく。

本シンポジウムでは、特に英国児童文学を題材にした文学研究を、大学での教育と融合させる試みを紹介する。各講師は、英文学・文化研究などの知への窓口としての児童文学の可能性を、イングランドのナショナル・アイデンティティー、環境思想、多文化主義といった主題に沿って披露する。英文学研究者にとどまらず、様々な分野の大学教員や学生も気軽に参加でき、活発な意見交換ができる場にしたい。

#### *St. George and the Dragon* in British literary and cultural history

南山大学 教授 橋 本 恵

In the multicultural and multiethnic nation of Britain, there has been a wide range of socio-cultural as well as socio-political issues, of which national identity is one of the most vital. In this talk, I would like to discuss the issue of national identity by focusing on the representation of St. George and the Dragon as one of the most long-lived motifs in literary/cultural history. Today, references to the legend are found in children's and juvenile literature. This is also often alluded to in role-playing games. Tracing the basis of St. George and the Dragon to the heroic epic, I would like to suggest ways to motivate and stimulate students in literary and cultural studies.

#### Reading the Environment in British Children's Literature

南山大学 講師 Ve-Yin Tee

Children's books offer me an accessible medium through which to teach students about the most serious social issues and the most difficult literary ideas. I will demonstrate this in two stages. First, to indicate how the politics of something as esoteric as biocentrism may be found across *The Two Towers* of J. R. R. Tolkien, *The Iron Man* by Ted Hughes, and Alan Moore's graphic novel *The Watchman*. Next, I will show how I have only required a single, 90-minute lecture to teach 1st and 2nd year students at Nanzan University about environmentalism in general and its connection to Dahl's *James and the Giant Peach*.

## Harry Potter and the Indian Twins

中京大学 准教授 板倉 厳一郎

The Harry Potter books, unarguably international bestsellers, display the author's ambivalent stance towards a wide range of socio-cultural issues of our times, and have been subjects of academic enquiry. Then, can we use these texts to bridge the perceived gap between the classroom and the groves of academe? In this talk, I would like to explore the "uses" of the series for literary/cultural studies and English language teaching. Beginning with such an apparently innocuous question as — "Why are Parvati and Padma Patil always slighted by boys?" — I will show you how we can turn it into a more serious academic discussion on Rowling's attitude towards multicultural Britain.

## 第2室（英語学） [R31 教室]

## 新学習指導要領時代の英語学教育

司会・講師 鈴木 達也（南山大学 教授）  
 講師 金子 義明（東北大学 教授）  
 講師 都築 雅子（中京大学 教授）

新学習指導要領については、英語による指導や従来にも増して焦点が当てられたコミュニケーション力に関する要素が脚光を浴びる一方、文法指導については、従来の文法訳読式の英語教育に対するマイナスのイメージから、比較的、語られる機会が少なくなっていると言えるでしょう。本シンポジウムでは、英語学、とりわけ文法に関わる側面について、新学習指導要領のもとで学んできた学生達に大学ではどのような教育を施したら良いのかという問題を巡って、3人の言語学者による考察を行いたいと思います。

従来の英語教育における文法の扱いは、それぞれの高校において事情が異なり、学校によってオーラルコミュニケーション、リーディング、あるいは作文の授業の中で必要に応じて文法が教えられてきました。本シンポジウムでは、新学習指導要領のもとで高校においてどのような文法指導を行うことが望ましいかという点にも言及しつつ議論を進めたいと思います。

## 英語教育と英語学の視点：関係節をいかに教えるか

南山大学 教授 鈴木 達也

本発表では、関係節を例に、新学習指導要領のもとでどのような指導が想定され、またそのような指導のもとで学んだ学生が大学で英語学を学ぶ際、どのような困難が予想されるかという点について考えたいと思います。

英語の関係節形成に関しては、言うまでもなく関係代名詞が関わっていますが、生成文法では、演算子としての関係代名詞がCP指定辞に移動していると仮定しています。この分析では、wh-island等の移動に関する制限との関わりが重要となりますが、生成文法的観点からは、wh疑問文におけるwh句の移動と関係代名詞の移動を並行的にとらえる分析を行います。しかしながら、従来の英語教育では必ずしもそのような視点からは関係節形成を教えてはいません。

構文中心ではなく構造に焦点を当てる新学習指導要領の視点から、関係節形成をどのように教えることが望ましいかという点を軸に、新学習指導要領と大学における英語学との連携について

考えたいと思います。

## これからの英語学教育と新たな学習英文法構築の可能性

東北大学 教授 金子 義明

従来、初学者に英語学を教える場合、伝統的学習英文法の知識があることを前提としてきました。この知識は、基本的英語力の土台として必要なだけでなく、言語学的視点によって説明されるべき英語の言語現象の知識として重要な役割を果たしてきました。コミュニケーション力の養成への比重を高めた新学習指導要領による英語教育を経て、文法知識が脆弱になることも懸念されますが、文法力の低下を指摘する声は以前からすでにあがっていたように思えます。このような状況を踏まえ、これからの英語学教育のありかたを考えたいと思います。英語学研究から英語教育への貢献を視野に入れて、英語学教育の一環として、構成素、言語の無限の生成力、X理論等の生成文法の基本概念や、移動現象、省略現象等に関わる知見を組み入れた大学生のための新たな学習英文法を構築する可能性を考えたいと思います。

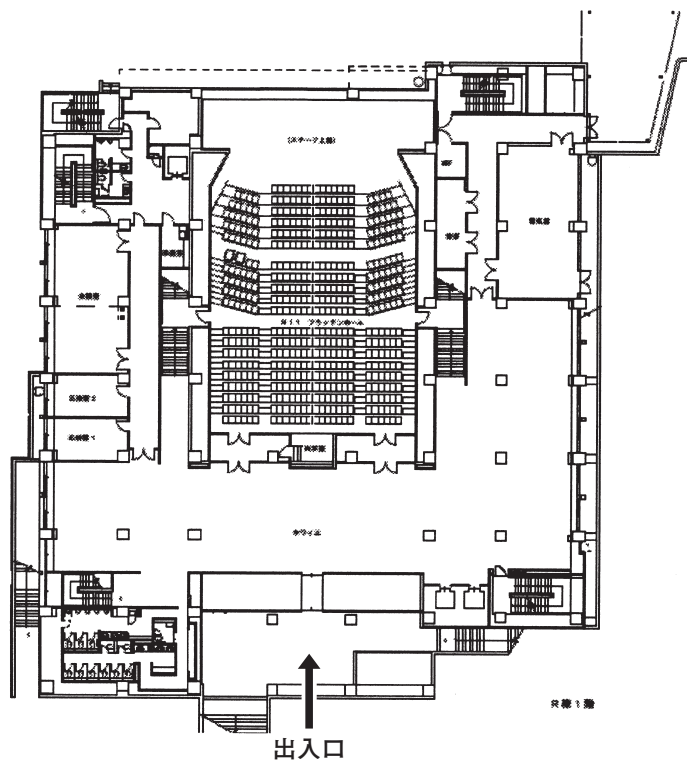
## 使える英語への橋渡しとなる英文法教育を探る

中京大学 教授 都築 雅子

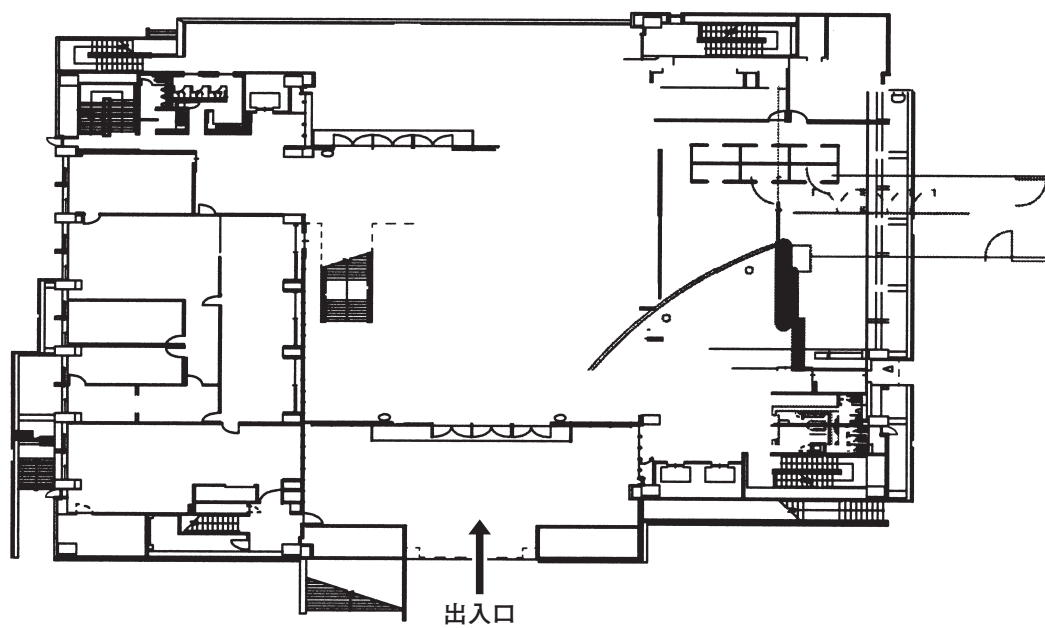
語学に興味をもつ大学生には英語運用能力の実用的な側面に強い関心を示す者がもともと多かったと思われますが、英文学科が軒並み、コミュニケーション学科などの名称に改組してから、その傾向に拍車がかかったような気がします。また高等学校新学習指導要領には、文法について「コミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る」と書かれており、コミュニケーションのための文法といった位置づけが鮮明になっています。このような状況において、大学で英語教育に携わる者として、英語学研究で得られた知見のどのような文法知識を、授業において、どのように活用すれば英語の運用能力の向上に結びつくかについて考えていく必要があると思われます。本発表では、英語の通じやすさに関わる文法項目（例えば、動詞の語彙・概念構造に関する文法知識など）を取り上げ、それらについて、どのように授業で取り入れていけば、使える英語への橋渡しができるかを探っていききたいと思います。

## 会場建物（R棟）案内図

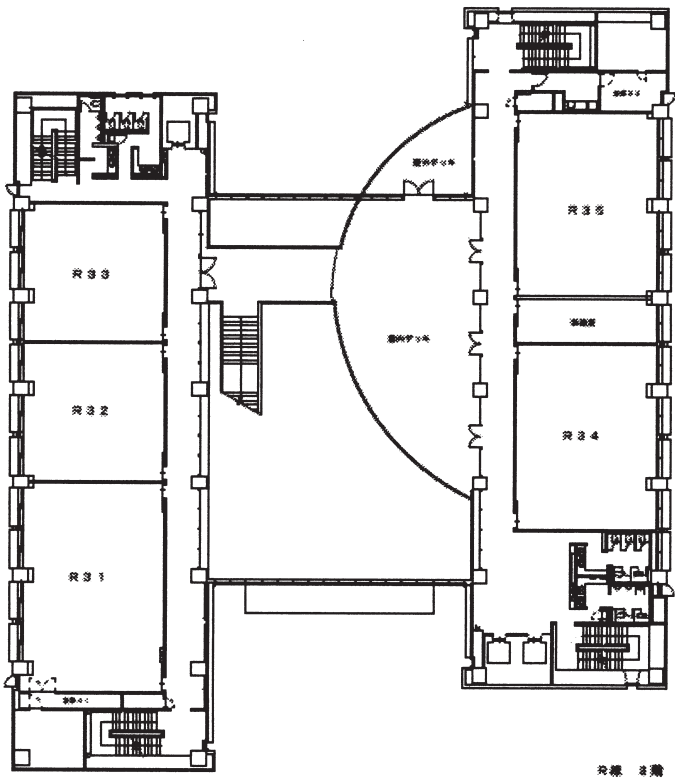
1 階：フラッテンホール、応接室 1、応接室 2



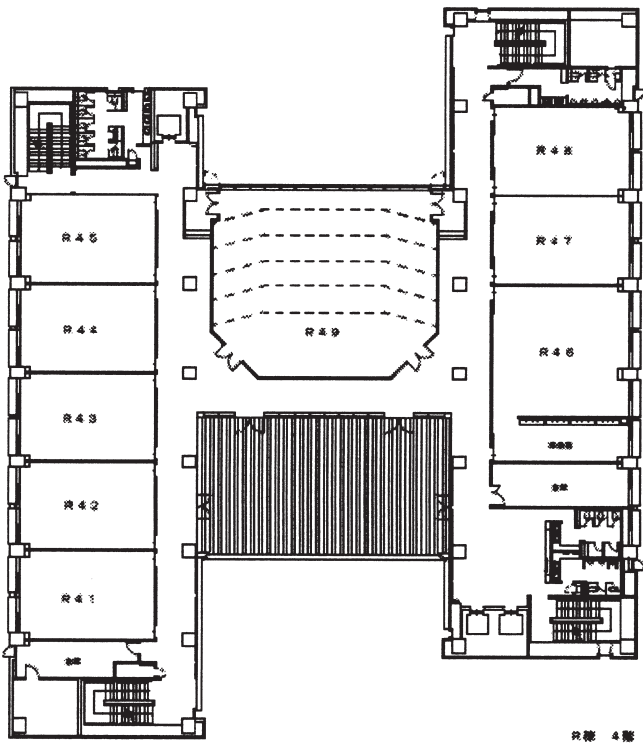
2 階：地上階・会場入口



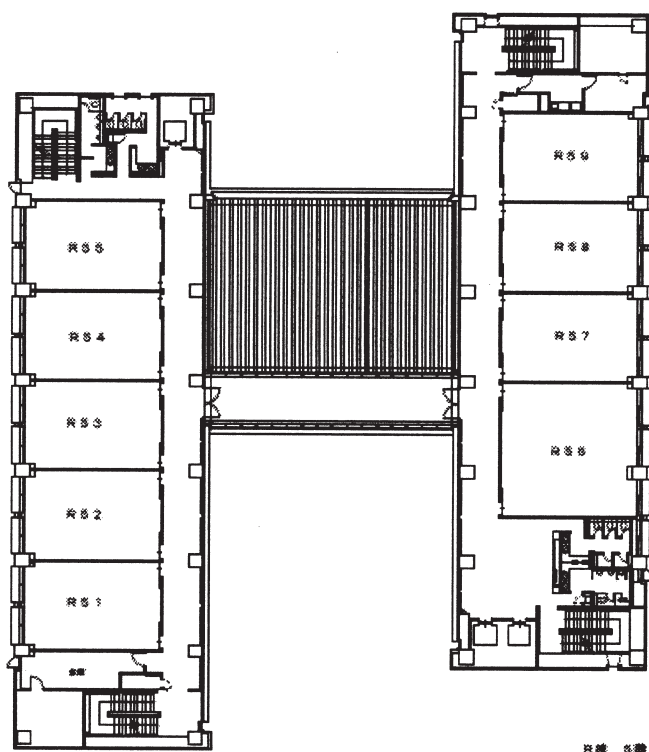
3 階：R31・32・R33 教室



4 階：R41・R42・R43・R44・R49 教室



## 5 階：R51・R52 教室



・通常の入り口は地上2階となります。

・控室は以下の通りです。

大会本部 応接室1 (R棟1階)

特別講演講師・シンポジウムパネリスト 控室 応接室2 (R棟1階)

研究発表者・司会者 控室 R42 (R棟4階)

書店 R41 (R棟4階)

## 交通のご案内

### 鉄道

地下鉄名城線八事日赤駅1番出口から会場まで北へ徒歩10分。

- ・JR名古屋駅・名鉄新名古屋駅・近鉄名古屋駅からの場合…地下鉄東山線藤が丘行きに乗車し、本山駅で地下鉄名城線右回りに乗り換え、八事日赤駅下車。所要時間約30分（乗換含）。なお、車内の案内放送では名古屋大学駅にて下車と伝えられますが、会場となるR棟へは八事日赤駅が最寄駅となるので便利です。
- ・JR金山駅・名鉄金山駅からの場合…地下鉄名城線左回りに乗車し、八事日赤駅下車。所要時間約25分。

### 航空機

- ・中部国際空港から名鉄特急に乗車し、名古屋駅または金山駅で下車、その後地下鉄に乗り換え（上記参照）。又は、空港バスにて栄または名古屋駅に出て、地下鉄に乗り換え。



### 八事日赤駅から正門へ



## 開催校からのお知らせ

- ・土曜日は学生食堂「DAGANE」が利用できます（15時まで）。日曜は利用できません。
- ・学内にはコンビニがあります。八事日赤駅より南山大学正門までにもコンビニがあります。
- ・学会用の駐車スペースは用意されていないので、公共交通機関をご利用ください。